



KONICA MINOLTA

コニカミノルタグループ 2011年3月期 決算説明会

2011年5月12日

コニカミノルタホールディングス株式会社

常務執行役 安藤吉昭



- **本資料の記載情報**

本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。

- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**

本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。

今回の決算のポイント



KONICA MINOLTA

10年度実績

- ▶ 円高の影響を受け、主力事業中心に対前年では減収減益。
4Qでは直前期比で収益力は回復したが、前回予想に対しては未達。
- ▶ 情報機器事業は、前年4Qの特殊要因を除くと実質増益。
オプト事業は、TACフィルムは期後半に持ち直すも、それ以外は調整影響が長引き、全般に伸び悩む。
- ▶ 当期純利益では、フォトイメージング事業の解散による税効果等により、当初計画を超過達成。
- ▶ 当初計画どおり年間15円の配当を実施。

11年度業績予想

- ▶ 東日本大震災によるリスクを織り込んだ上で、増収増益を見込む。

2010年度 グループ業績要約



KONICA MINOLTA

[億円]

	10年度	09年度	YoY	前回予想	10年度		QoQ
	通期	通期			4Q	3Q	
売上高	7,780	8,045	△ 265	7,800	2,027	1,835	192
営業利益	400	440	△ 40	450	118	56	61
(営業利益率)	5.1%	5.5%		5.8%	5.8%	3.1%	
のれん代償却額	84	92	△ 8	85	21	20	0
のれん代償却前営業利益	484	532	△ 48	535	138	77	62
(のれん代償却前営業利益率)	6.2%	6.6%		6.9%	6.8%	4.2%	
当期純利益	259	169	90	200	151	22	130
(当期純利益率)	3.3%	2.1%		2.6%	7.5%	1.2%	
為替レート [円] US\$	85.71	92.85	△ 7.14	85.00	82.34	82.64	△ 0.30
Euro	113.11	131.15	△ 18.04	110.00	112.57	112.23	0.34

※4Q想定レート

2010年度 グループ業績総括



KONICA MINOLTA

通期(対前年比)

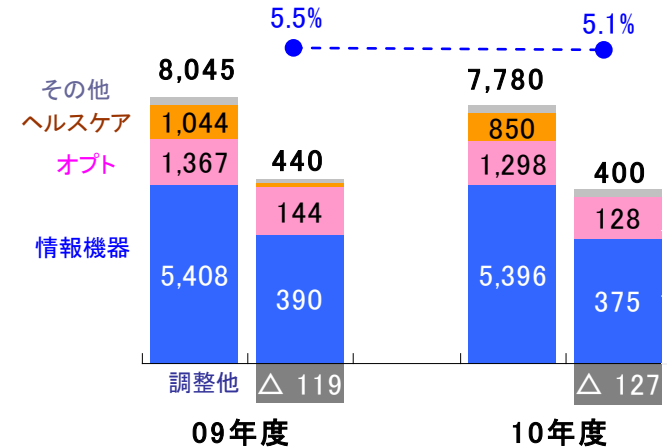
- 売上高: $\Delta 3\%$ (為替影響除く +3%)/YoY
- 営業利益: $\Delta 9\%$ (為替影響除く +39%)/YoY
- ▶ 売上高、営業利益ともに円高の影響を大きく受けるが、情報機器事業でのMFP販売増により、為替を除く実質ベースでは増収増益。

4Q(対直前期比)

- 売上高: +10%(為替影響除く +10%)/QoQ
- 営業利益: +108%(為替影響除く +107%)/QoQ
- ▶ 情報機器事業では、高採算な新製品の販売数量増により、増収増益。
- ▶ オプト事業は、TACフィルムの販売数量増により増益。
- ▶ ヘルスケア事業は、デジタル入力機器の販売数量増により増収。

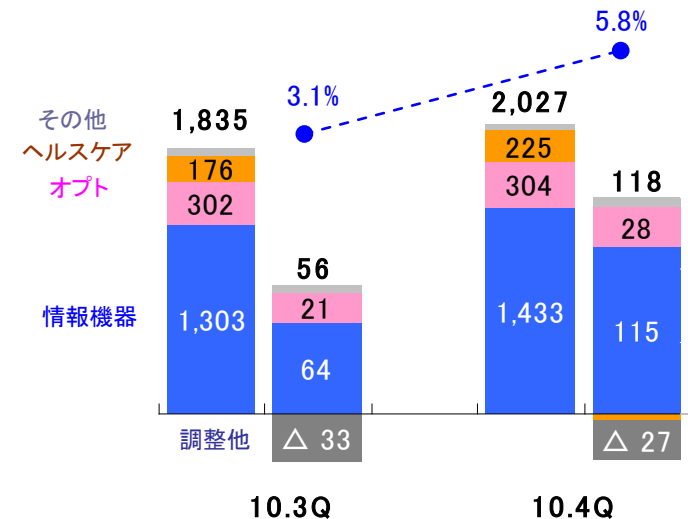
◆グループ売上・営業利益(YoY)

左:売上高 右:営業利益 ...営業利益率 [億円]



◆グループ売上・営業利益(QoQ)

左:売上高 右:営業利益 ...営業利益率 [億円]



2010年度 セグメント別売上高・営業利益



KONICA MINOLTA

売上高	10年度 通期	09年度 通期	YoY	10年度		[億円] QoQ
				4Q	3Q	
情報機器	5,396	5,408	△ 12	1,433	1,303	130
オプト	1,298	1,367	△ 69	304	302	2
ヘルスケア※	850	1,044	△ 194	225	176	49
その他事業	157	145	12	41	36	5
HD他	78	81	△ 3	24	17	6
グループ計	7,780	8,045	△ 265	2,027	1,835	192

営業利益	10年度 通期	09年度 通期	YoY	10年度		QoQ
				4Q	3Q	
情報機器	375	390	△ 15	115	64	51
オプト	128	144	△ 16	28	21	7
ヘルスケア※	2	15	△ 13	△ 4	0	△ 4
その他事業	22	11	12	7	5	2
HD他	△ 127	△ 119	△ 8	△ 27	△ 33	6
グループ計	400	440	△ 40	118	56	61

※09.1Q～10.2Qはグラフィック事業を含む(10.3Q以降は情報機器事業に編入)

情報機器事業の概況



KONICA MINOLTA

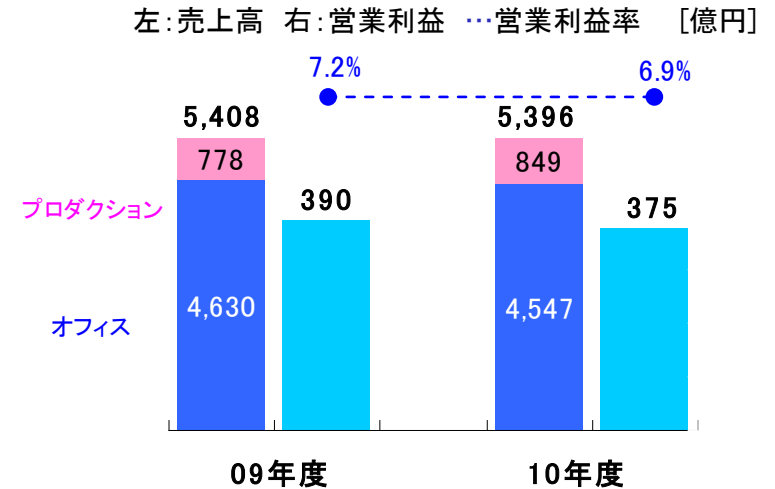
通期(対前年比)

- 売上高: 前年並み(為替影響除く +8%)/YoY
- 営業利益: $\Delta 4\%$ (為替影響除く+39%)/YoY
- ▶ オフィス: MFP新製品の販売増が牽引、為替影響を除く実質ベースでは増収増益。
- ▶ プロダクションプリント: 4Qでのカラー新製品販売好調が牽引し、収益性の改善に寄与。

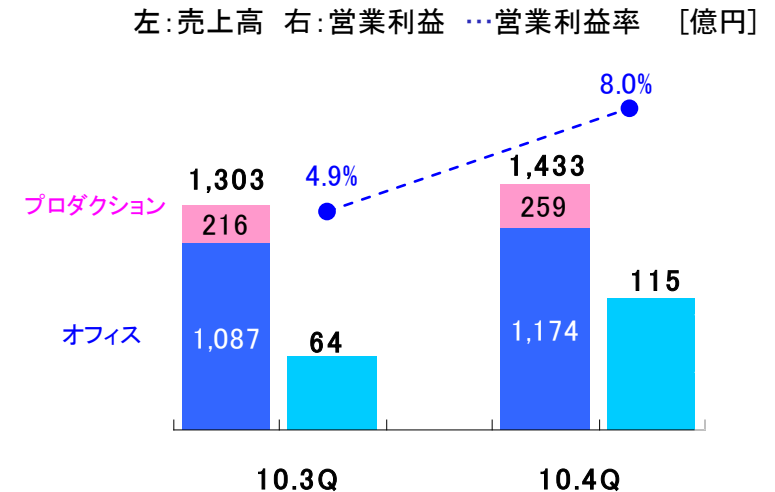
4Q(対直前期比)

- 売上高: +10% (為替影響除く +10%)/QoQ
- 営業利益: +79% (為替影響除く+75%)/QoQ
- ▶ オフィス: カラー、モノクロともに販売数量増、ミックス改善も伴って、大幅に収益性が改善。
- ▶ プロダクションプリント: カラー新製品中心に販売数量が大幅伸長し、収益改善。

◆売上・営業利益(YoY)



◆売上・営業利益(QoQ)



情報機器事業 MFP販売状況



KONICA MINOLTA

オフィスMFP

- 通期 (YoY): +18% (カラー: +18% モノクロ: +18%)
- ▶ カラー、モノクロともに新製品が牽引。
- 4Q (QoQ): +5% (カラー: +23% モノクロ: Δ5%)
- ▶ カラーは伸長、モノクロは数量減ながら高速化が進む。

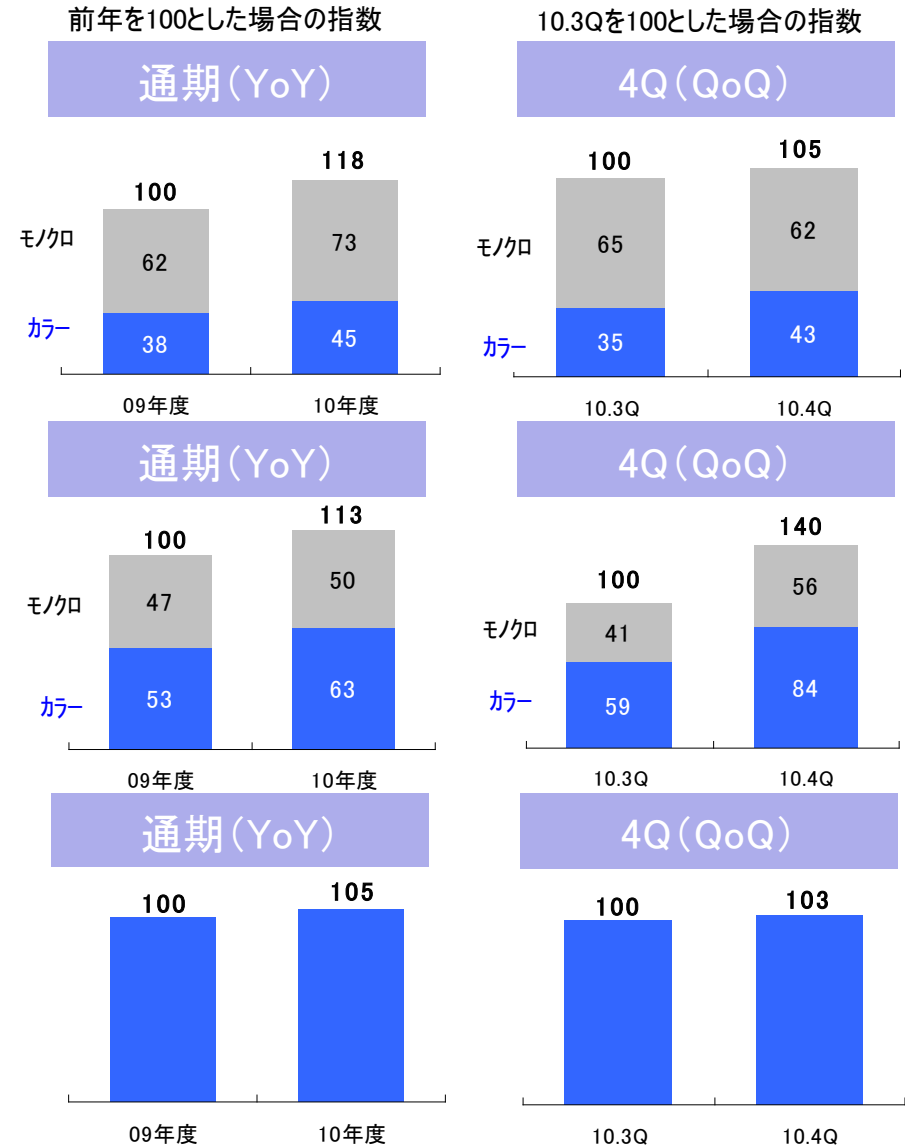
プロダクションプリント

- 通期 (YoY): +13% (カラー: +21% モノクロ: +5%)
- ▶ 4Qでのカラー新製品が牽引、前年比で+41%増。
- 4Q (QoQ): +40% (カラー: +41% モノクロ: +39%)
- ▶ カラー、モノクロ共に大幅伸長。

ノンハード売上高

- 通期 (YoY): Δ3% (為替影響除く+5%)
- 4Q (QoQ): +3% (為替影響除く+3%)
- ▶ 為替影響を除く実質ベースでは、安定した成長が続く。

主要製品販売数量



※共に現地通貨ベースの伸長率

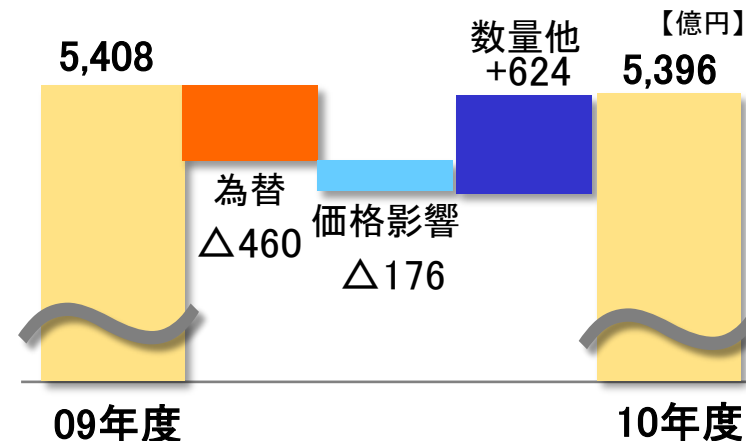
情報機器事業 売上・営業利益増減分析(通期 YoY)



売上高

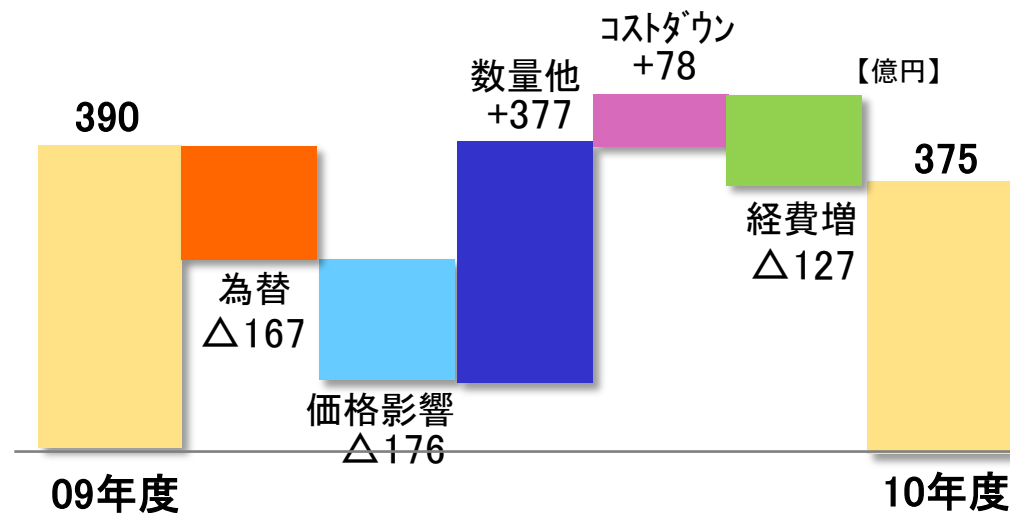
- ▶ 円高による為替影響や価格下落の影響を、MFPの販売物量増により吸収し、ほぼ前年並みまで挽回。

※10年度下半期以降は、情報機器事業にグラフィック事業売上高(約40億)が含まれる。



営業利益

- ▶ 為替影響や価格下落の影響を、販売物量増やコストダウンで吸収するも、上半期中心に発生した、Air費用増や、将来成長の為の研究開発費の増加により減益。

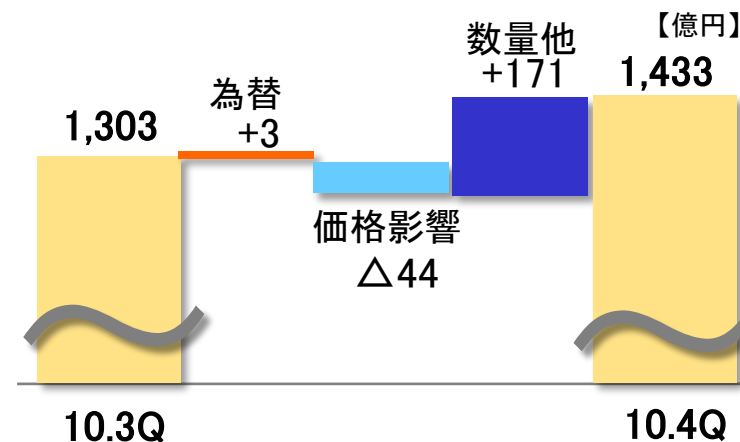


情報機器事業 売上・営業利益増減分析(4Q QoQ)



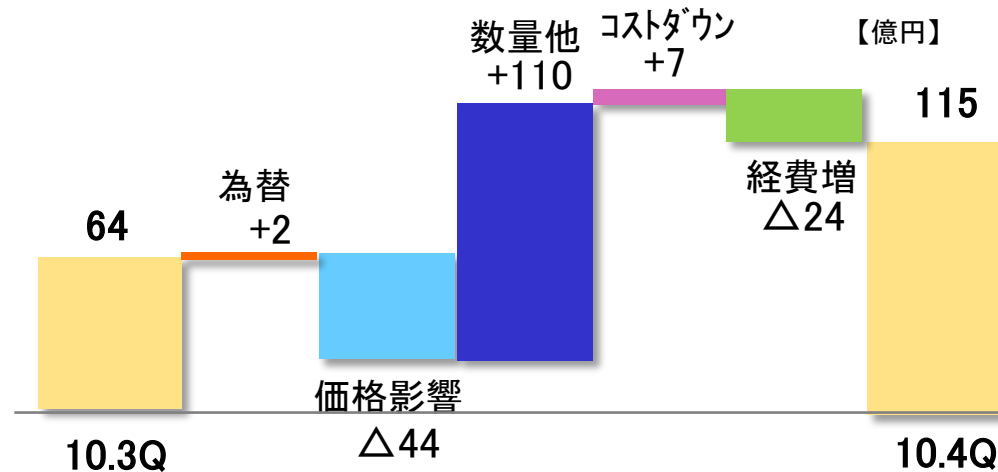
売上高

- ▶ カラーMFP販売増およびモノクロMFPの高速セグメントへのシフトにより、数量増効果に加え、製品ミックスも改善。



営業利益

- ▶ MFP販売数量増、製品ミックス改善により大幅増収。
- ▶ 経費増は、数量増に伴う販売変動費の増加が主。



オプト事業の概況

通期(対前年比)

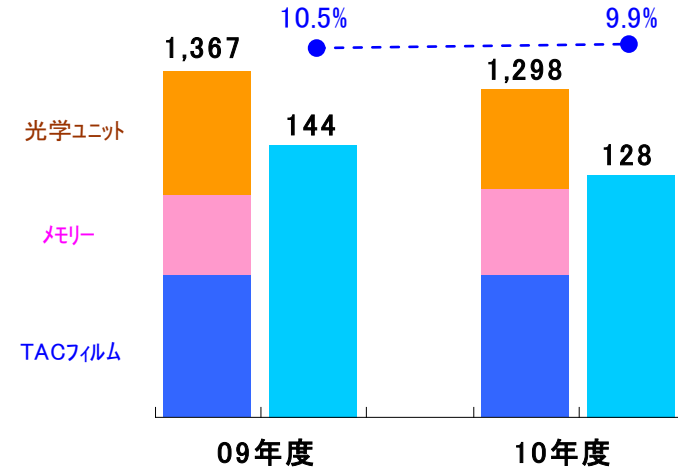
- 売上高: Δ 5%/YoY
- 営業利益: Δ 11%/YoY
- ▶ TACフィルム: 市況回復に加え、競争力の高い新製品の投入により、前年並みの売上を確保。
- ▶ ガラスHD基板: 上半期中心に数量拡大。
- ▶ 光ピックアップレンズ: ブルーレイ用の伸び悩みと、製品ミックス変化で減収。
- ▶ 光学ユニット: 全般に低調に推移。

4Q(対直前期比)

- 売上高: + 1%/QoQ
- 営業利益: +33%/QoQ
- ▶ TACフィルム: 数量回復により増収増益。
- ▶ ガラスHD基板: 10月以降のバリューチェーンでの生産調整が長引き、減収。
- ▶ 光ピックアップレンズ: ブルーレイ用の販売数量減により減収。
- ▶ 光学ユニット: 顧客の生産調整により、数量減。

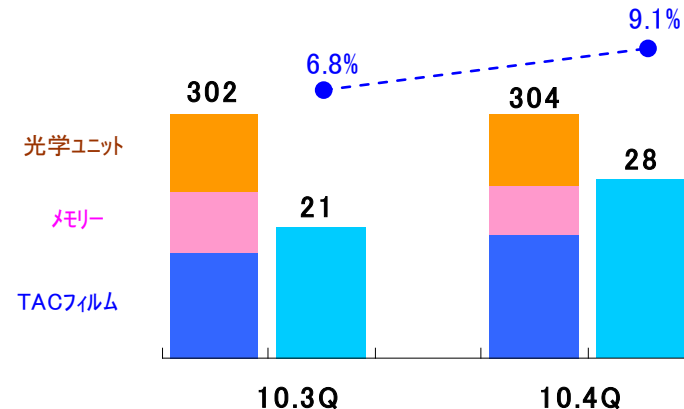
◆売上・営業利益(YoY)

左:売上高 右:営業利益 ...営業利益率 [億円]



◆売上・営業利益(QoQ)

左:売上高 右:営業利益 ...営業利益率 [億円]



オプト事業 主要製品販売状況



KONICA MINOLTA

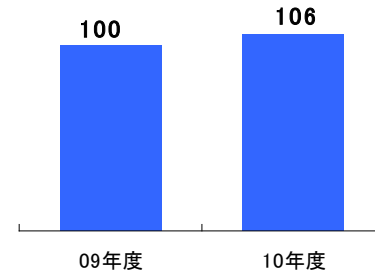
主要製品販売数量

TACフィルム

- ▶ 通期(YoY): 市況回復、販路拡大により数量増。
- ▶ 4Q(QoQ): VA-TAC新製品の投入により、数量増。

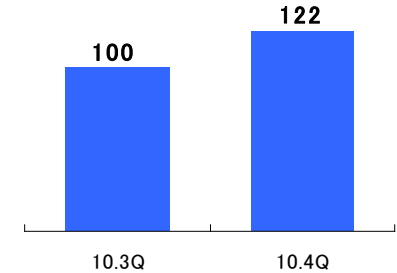
前年を100とした場合の指数

通期(YoY)



10.3Qを100とした場合の指数

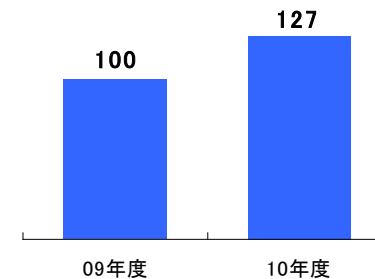
4Q(QoQ)



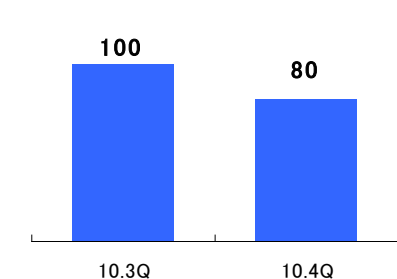
ガラスHD基板

- ▶ 通期(YoY): 上半期での数量増効果が寄与。
- ▶ 4Q(QoQ): 生産調整が長引き、数量減。

通期(YoY)



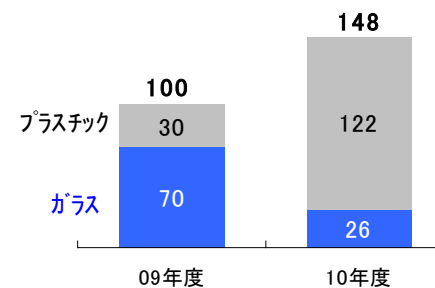
4Q(QoQ)



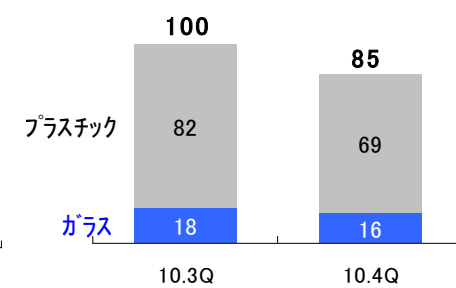
光ピックアップレンズ

- ▶ 通期(YoY): 販売数量は大幅伸長も、製品ミックスが変化。
- ▶ 4Q(QoQ): 顧客の生産調整の影響を受け、販売数量が減少。

BD通期(YoY)



BD4Q(QoQ)



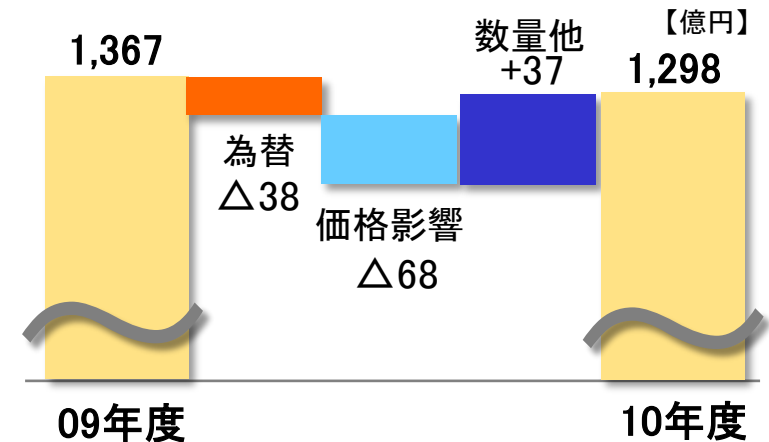
オプト事業 売上・営業利益増減分析(通期 YoY)



KONICA MINOLTA

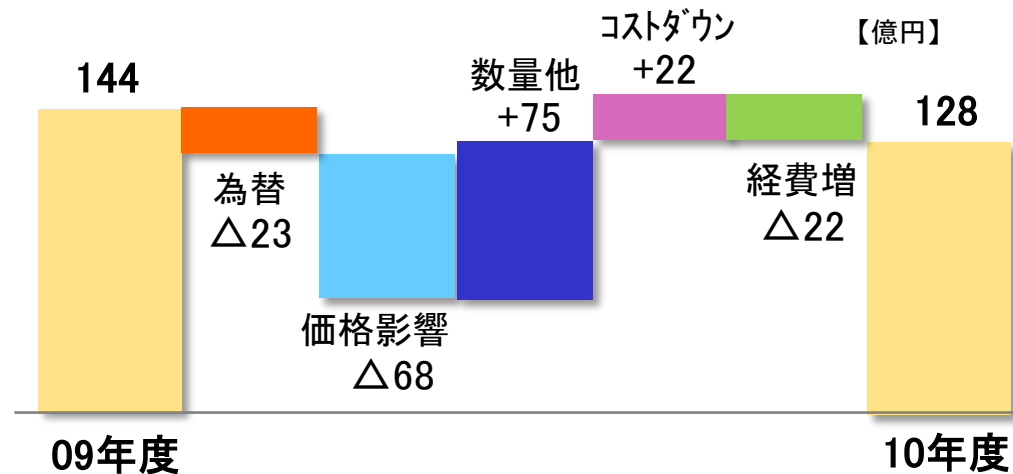
売上高

- ▶ 為替影響は、主にガラスHD、レンズユニットで発生。
- ▶ 価格影響は、レンズユニット、TACフィルムで発生。
- ▶ 数量他の増は、ガラスHDおよびTACフィルムの販売数量増による。



営業利益

- ▶ 数量他は、ガラスHDおよびTACフィルム等の販売数増、及び他製品の品種構成差による改善。
- ▶ コストダウンはレンズユニットでの部品調達コストの低減と生産効率化等が寄与。
- ▶ 経費増は、主にTAC第7工場の稼働とマレーシアでのガラスHD生産能力増強に伴う償却費増による。



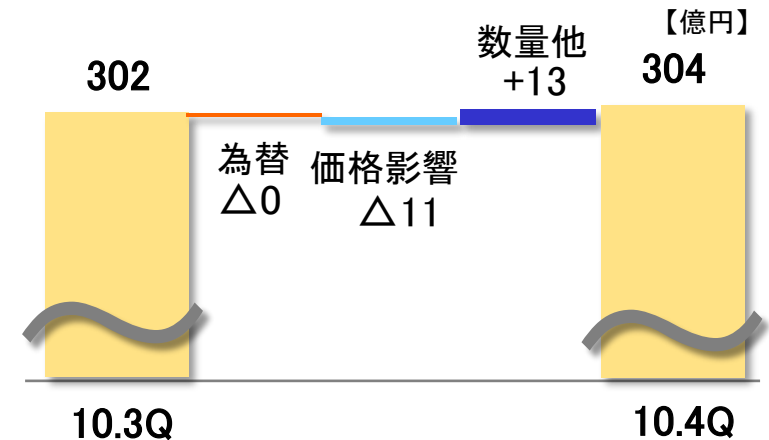
オプト事業 売上・営業利益増減分析(4Q QoQ)



KONICA MINOLTA

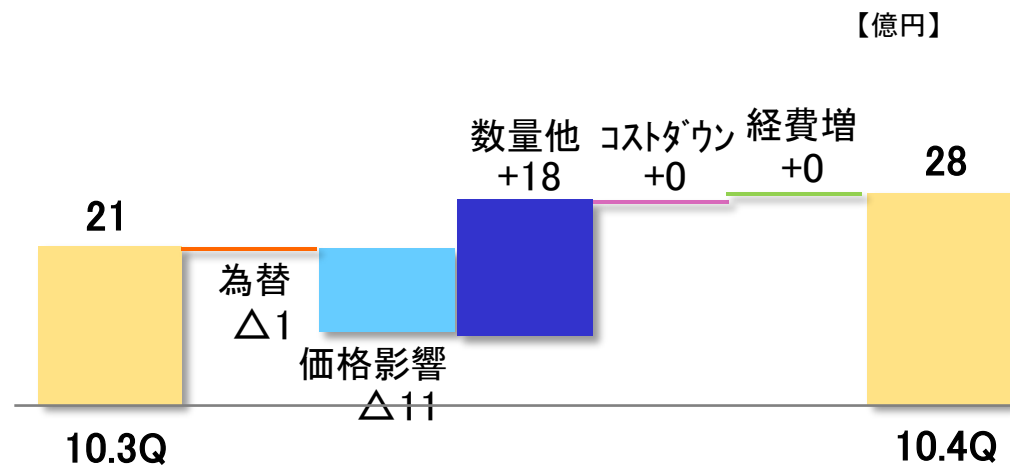
売上高

- ▶ TACフィルムは販売数量増により増収となったが、その他の主要製品は販売数量が減少。結果、直前期並みの売上に留まる。
- ▶ 価格影響はTACフィルムおよびガラスHDが主。



営業利益

- ▶ 数量他は、TACフィルム等の数量増及び他製品の品種構成差による改善。



2011年度業績予想 全社業績



KONICA MINOLTA

	2011年度 予想	2010年度 実績	[億円]	
			YoY	
			増減額	増減率
売上高	8,100	7,780	320	4%
営業利益	420	400	20	5%
(営業利益率)	5.2%	5.1%		
のれん代償却額	80	84	△ 4	
のれん代償却前営業利益	500	484	16	3%
(のれん代償却前営業利益率)	6.2%	6.2%		
経常利益	390	332	58	18%
当期純利益	200	※ 259	△ 59	-23%
(当期純利益率)	2.5%	3.3%		

※2010年度の当期純利益には、フォトイメージング事業の解散に関わる税効果等が含まれる。

	為替レート	[円]	US\$		
		85.00	85.71	△ 0.71	
		115.00	113.11	1.89	

設備投資	500	430
減価償却費	650	551
研究開発費	800	726
FCF	80	232

2011年度業績予想 セグメント別売上高・営業利益



KONICA MINOLTA

[億円]

売上高	2011年度 予想	2010年度 実績	YoY	
			増減	増減率
情報機器	5,700	5,396	304	6%
オプト	1,300	1,298	2	0%
ヘルスケア	870	850	20	2%
その他事業	160	157	3	2%
HD他	70	78	△ 8	
グループ計	8,100	7,780	320	4%

営業利益	2011年度 予想	2010年度 実績	YoY	
			増減	増減額
情報機器	410	375	35	9%
オプト	150	128	22	17%
ヘルスケア	20	2	18	1065%
その他事業	15	22	△ 7	-
HD他	△ 175	△ 127	△ 48	-
グループ計	420	400	20	5%



Gプラン2013の初年度として、確実に成長を実現する。

- 売上成長の必達
- 利益・キャッシュフロー創出力の強化

情報機器事業

- ▶ オフィス分野： 新製品カラーMFP投入による拡販。
- ▶ プロダクションプリント分野： 成長ドライバーとして売上成長を牽引。

オプト事業

- ▶ TACフィルム： 製品の競争優位性向上により、市場以上の成長を果たす。
- ▶ その他の分野： より収益性の高い製品へのシフトと生産効率性の向上に努める。

ヘルスケア事業

- ▶ 機器・サービス事業への転換加速。

2011年度業績予想の前提条件

為替前提

(円)

<参考>2010年度 為替感応度

※1円変動時の年間影響額

	2011年度前提	2010年度実績	売上高	営業利益
US \$	85.00	85.71	29億円	4億円
Euro	115.00	113.11	14億円	8億円

東日本大震災による影響

■ 業績予想に織り込んだリスク

売上高: △約130億円 営業利益: △約50億円

売上高への影響

- ▶ 部材調達難による機会損失影響を一定額見込む。

営業利益への影響

- ▶ 部材調達難に伴い代替品調達によるコスト増。
- ▶ 売上機会損失の影響極小化のための物流費増(Air代など)。
- ▶ 自家発電など電力確保の為の経費増。

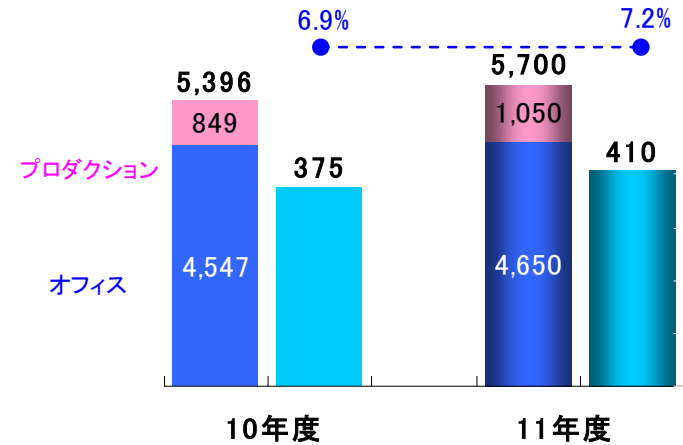
情報機器事業



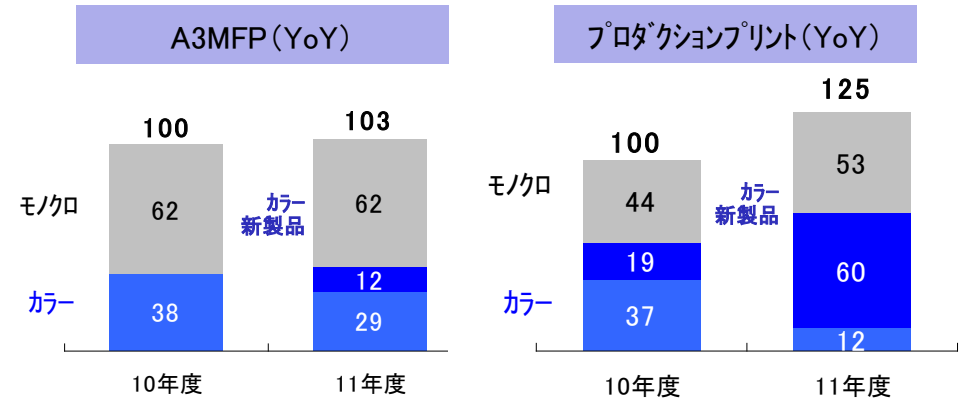
KONICA MINOLTA

◆売上・営業利益(YoY)

左:売上高 右:営業利益 ...営業利益率 [億円]



主要製品販売数量



※前年を100とした場合の指数

オフィス

- YoY: +3%(カラー: +8% モノクロ: 前年並み)
- ▶ A3カラー新製品投入による競争力強化に加え、A4もカラー新製品を拡販。
- ▶ 新興国における一層のシェア拡大。
- ▶ OPSアプローチによる事業規模の拡大。

プロダクションプリント

- YoY: + 25%(カラー: +30% モノクロ:+20%)
- ▶ ライト領域に加え、ミッド領域での新製品販売拡大。
- ▶ 市場設置台数拡大に伴うプリントボリューム拡大。

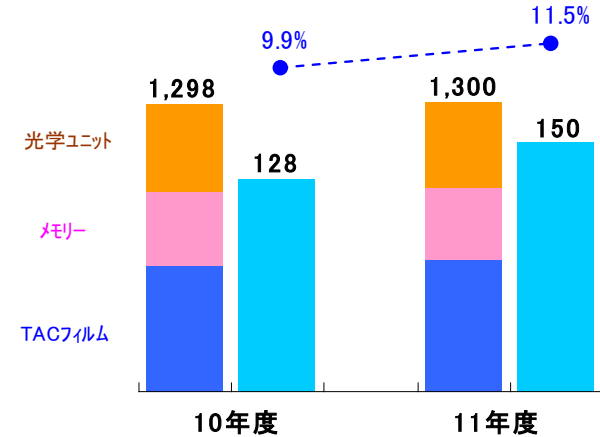
オプト事業



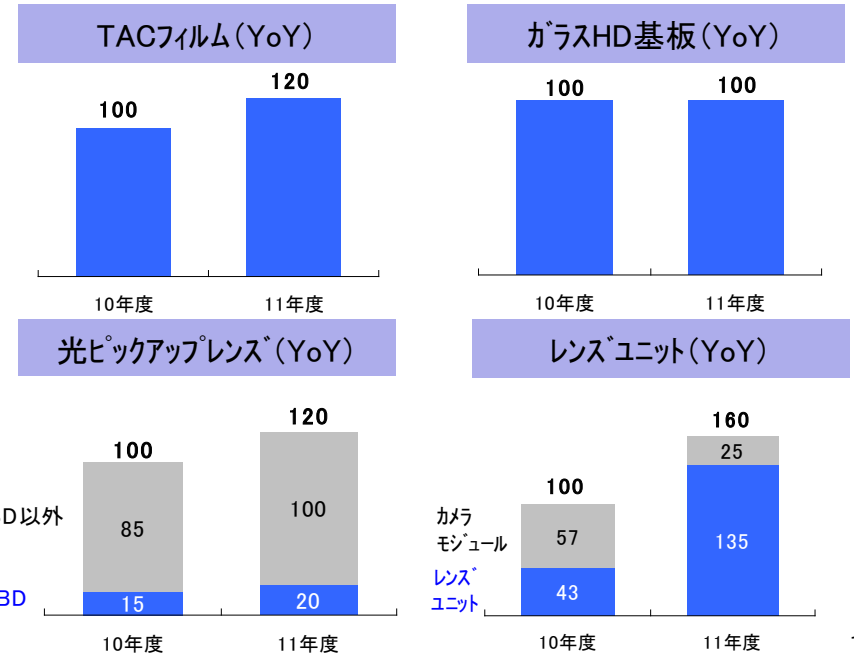
KONICA MINOLTA

◆売上・営業利益(YoY)

左:売上高 右:営業利益 ...営業利益率 [億円]



主要製品販売数量



TACフィルム

- ▶ 成長領域での製品展開による事業拡大。
- ▶ 競争優位性の高い新製品投入による収益性の向上。

ガラスHD基板

- ▶ 高密度化によるミックス改善。
- ▶ 生産効率化による収益性の改善。

光ピックアップレンズ

- ▶ 数量拡大による限界利益率向上。
- ▶ 生産効率化の推進による収益性の向上。

光学ユニット

- ▶ 成長領域での新規顧客獲得で、事業拡大を狙う。
- ▶ 生産効率化による収益性改善。

ヘルスケア事業



KONICA MINOLTA

デジタル機器 (CR/DR)

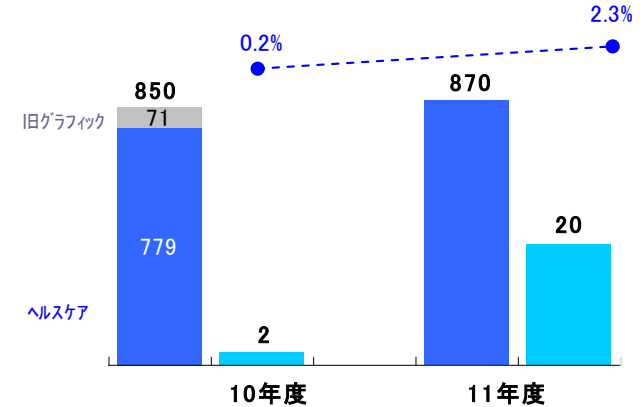
- ▶ クリニック市場を中心にCR新製品投入による事業拡大。新興国市場で事業拡大。
- ▶ 戦略商品であるDR新製品投入で、成長市場で本格展開。院内回診、整形市場を中心に新製品「カセット型DR」展開による事業の拡大。

DRYフィルム

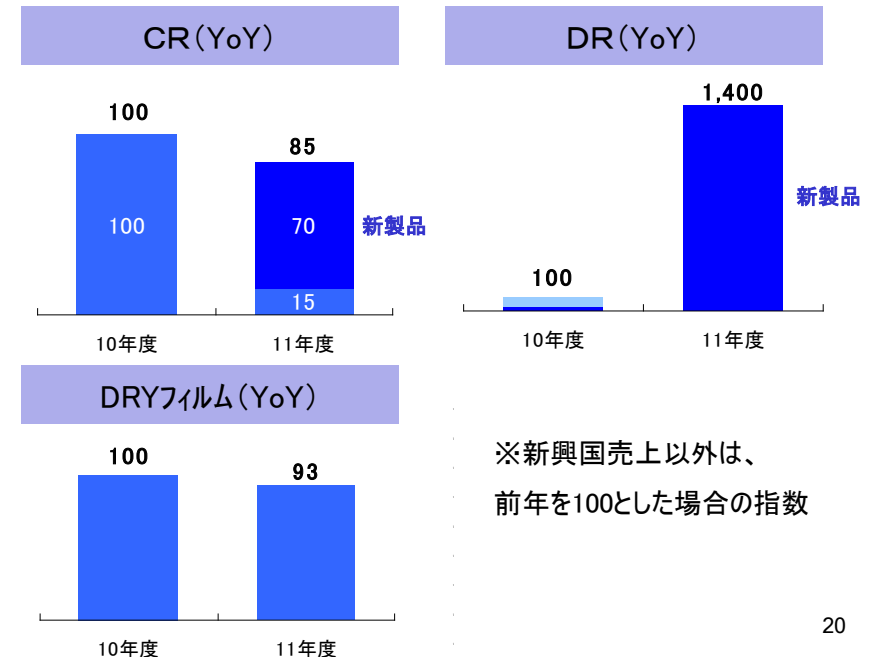
- ▶ 先進国での需要が減少する一方で、新興国需要が増加しており、全体では緩やかな減少に留まる見込み。

◆売上・営業利益 (YoY)

左:売上高 右:営業利益 ...営業利益率 [億円]



主要製品販売数量





KONICA MINOLTA

< 参 考 资 料 >

連結業績 通期累計比較



KONICA MINOLTA

	10年度	09年度	YoY [億円]
売上高	7,780	8,045	△ 265
売上総利益	3,546	3,645	△ 99
(売上総利益率)	45.6%	45.3%	-
営業利益	400	440	△ 40
(営業利益率)	5.1%	5.5%	-
経常利益	332	408	△ 77
税前利益	281	361	△ 80
当期純利益	259	169	90
(当期純利益率)	3.3%	2.1%	-
EPS [円]	48.84	31.93	-
設備投資額	430	369	60
減価償却費	551	612	△ 60
研究開発費	726	685	41
FCF	232	729	△ 497
為替レート [円] USD	85.71	92.85	△ 7.14
Euro	113.11	131.15	△ 18.04

セグメント別売上高/営業利益 通期比較



KONICA MINOLTA

売上高	10年度	09年度	YoY [億円]
情報機器	5,396	5,408	△ 12
オプト	1,298	1,367	△ 69
ヘルスケア	850	1,044	△ 194
その他事業	157	145	12
HD他	78	81	△ 3
グループ計	7,780	8,045	△ 265

営業利益	10年度	09年度	YoY
情報機器	375	390	△ 15
(営業利益率)	6.9%	7.2%	-
オプト	128	144	△ 16
(営業利益率)	9.9%	10.5%	-
ヘルスケア	2	15	△ 13
(営業利益率)	0.2%	1.4%	-
その他事業	22	11	12
HD他	△ 127	△ 119	△ 8
グループ計	400	440	△ 40
(営業利益率)	5.1%	5.5%	-

連結業績 四半期比較



KONICA MINOLTA

	10年度 4Q	09年度 4Q	YoY [億円]
売上高	2,027	2,157	△ 131
売上総利益	900	1,058	△ 158
(売上総利益率)	44.4%	49.1%	-
営業利益	118	228	△ 110
(営業利益率)	5.8%	10.6%	-
経常利益	109	217	△ 108
税前利益	119	185	△ 67
当期純利益	151	79	72
(当期純利益率)	7.5%	3.7%	-
EPS [円]	28.49	14.94	-
設備投資額	98	125	△ 27
減価償却費	140	151	△ 11
研究開発費	185	165	20
FCF	175	152	23
為替レート [円] USD	82.34	90.70	△ 8.36
Euro	112.57	125.62	△ 13.05

セグメント別売上高/営業利益 四半期比較



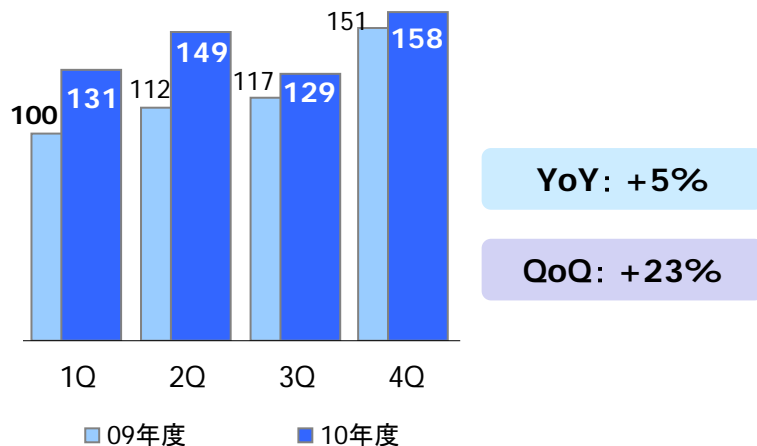
KONICA MINOLTA

売上高	10年度 4Q	09年度 4Q	YoY	[億円]
情報機器	1,433	1,469	△ 36	
オプト	304	341	△ 37	
ヘルスケア	225	279	△ 54	
その他事業	41	41	0	
HD他	24	27	△ 3	
グループ計	2,027	2,157	△ 131	

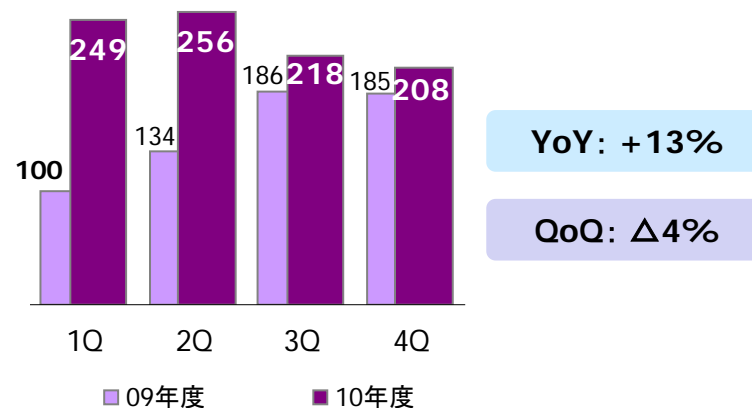
営業利益	10年度 4Q	09年度 4Q	YoY
情報機器	115	209	△ 94
(営業利益率)	8.0%	14.2%	-
オプト	28	41	△ 13
(営業利益率)	9.1%	12.0%	-
ヘルスケア	△ 4	△ 1	△ 4
(営業利益率)	-10.2%	-1.7%	-
その他事業	7	7	△ 1
HD他	△ 27	△ 29	2
グループ計	118	228	△ 110
(営業利益率)	5.8%	10.6%	-

情報機器事業 主要製品販売状況

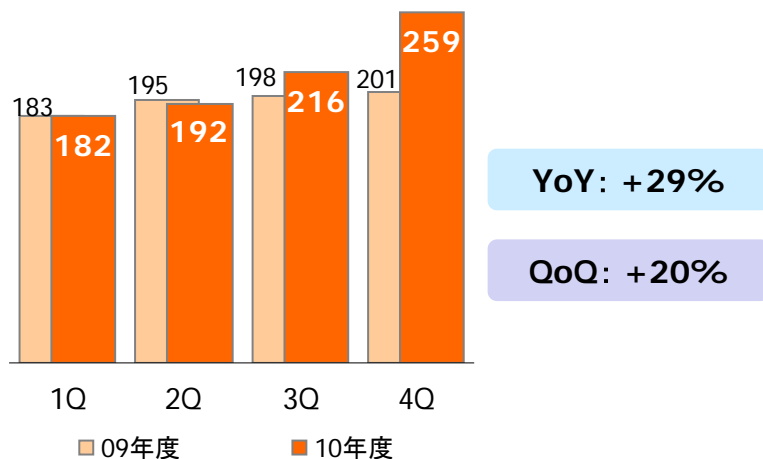
■ A3カラー-MFP 販売台数*



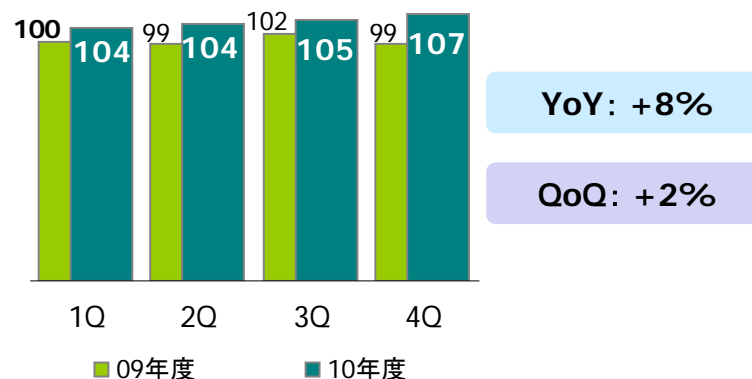
■ A4カラー-MFP 販売台数*



■ プロダクションプリント売上高 [億円]

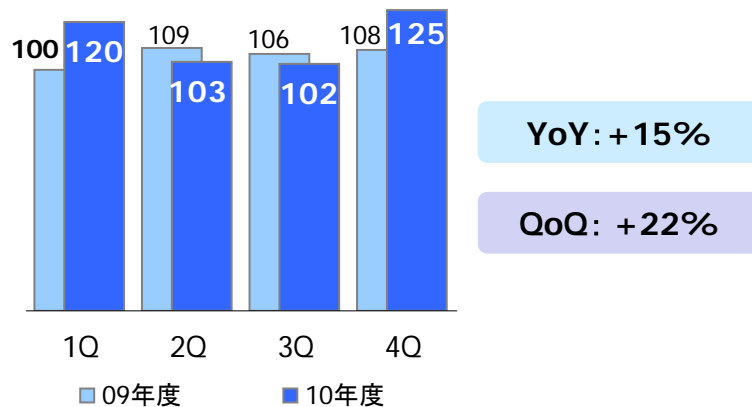


■ MFPノンハード売上* (為替影響排除後)

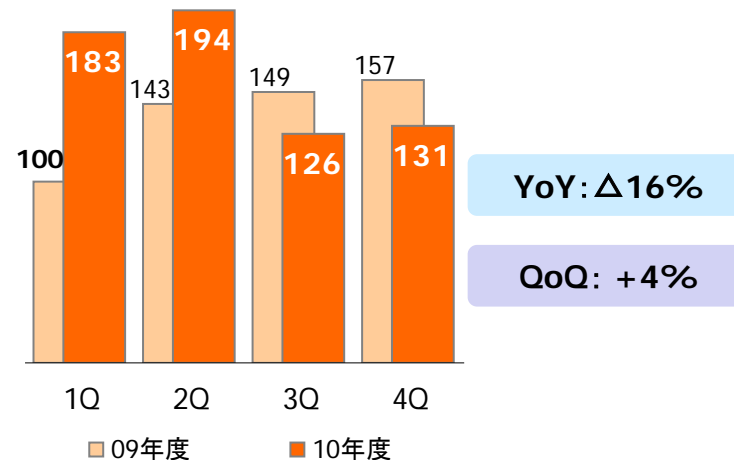


オプト事業 主要製品販売状況

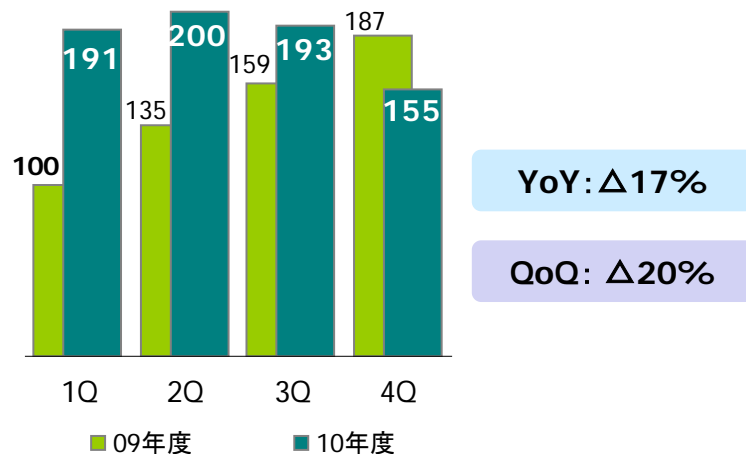
■ TACフィルム販売数量



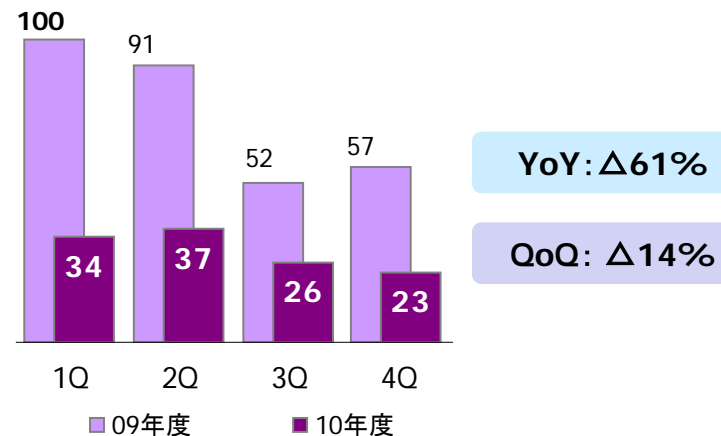
■ ピックアップレンズ販売数量



■ ガラスHD 基板販売数量



■ 携帯電話用コンポーネント



営業利益増減分析

通期・前年同期比較

(10年度 vs. 09年度)

	情報機器	オプト	その他	合計	[億円]
[要因]					
為替影響	△ 167	△ 23	△ 19	△ 209	
価格変動	△ 176	△ 68	△ 14	△ 258	
数量増減他	377	75	26	478	
コストダウン	78	22	3	103	
経費増減	△ 127	△ 21	△ 4	△ 153	
[営業利益]					
増減額(YoY)	△ 15	△ 16	△ 9	△ 40	

四半期・直前期比較

(10年度4Q vs. 10年度3Q)

	情報機器	オプト	その他	合計
[要因]				
為替影響	2	△ 1	△ 1	1
価格変動	△ 44	△ 11	0	△ 55
数量増減他	110	18	△ 19	109
コストダウン	7	0	△ 1	6
経費増減	△ 24	0	24	△ 1
[営業利益]				
増減額(YoY)	51	7	3	61

販売管理費・営業外損益・特別損益



KONICA MINOLTA

[億円]

	10年度	09年度	YoY	10年度 4Q	09年度 4Q	YoY
販売管理費						
販売変動費	444	411	33	113	114	△ 1
研究開発費	726	685	41	185	165	20
人件費	1,162	1,198	△ 36	302	296	5
その他	813	911	△ 98	183	255	△ 73
販売管理費 計	3,146	3,205	△ 59	782	831	△ 48
	* 為替影響額: △ 136 億円(実質増減 +76 億円)			△ 32 億円(実質増減 △ 16 億円)		
営業外収支						
金融収支	△ 13	△ 17	4	△ 3	△ 4	0
為替差損益	△ 38	△ 11	△ 26	1	△ 9	10
その他	△ 18	△ 3	△ 14	△ 7	2	△ 9
営業外収支 計	△ 69	△ 32	△ 37	△ 9	△ 11	2
特別損益						
固定資産売却損益	△ 15	△ 20	5	△ 4	△ 5	2
投資有価証券および 関係会社株式評価・売却損益	△ 7	△ 2	△ 5	4	△ 1	5
固定資産減損損失	△ 10	△ 26	15	△ 10	△ 24	14
事業構造改善費用	△ 35	△ 21	△ 14	△ 1	△ 9	8
その他	17	20	△ 3	20	7	13
特別損益 計	△ 50	△ 47	△ 3	10	△ 32	41

貸借対照表



資産の部	11年3月	10年3月	増減 [億円]
手元資金	1,751	1,641	110
売上債権	1,634	1,777	△ 144
棚卸資産	1,002	983	20
その他	631	491	140
流動資産 計	5,019	4,893	126
有形固定資産	1,907	2,051	△ 144
無形固定資産	884	991	△ 107
投資その他	645	724	△ 79
固定資産 計	3,436	3,765	△ 330
資産 合計	8,455	8,658	△ 203

負債および純資産の部

仕入債務	746	831	△ 85
有利子負債	1,926	1,974	△ 48
その他負債	1,493	1,645	△ 153
負債 合計	4,165	4,450	△ 286
自己資本 (株主資本+その他包括利益累計額計)	4,276	4,195	81
その他	13	12	1
純資産 合計	4,290	4,208	82
負債・純資産 合計	8,455	8,658	△ 203

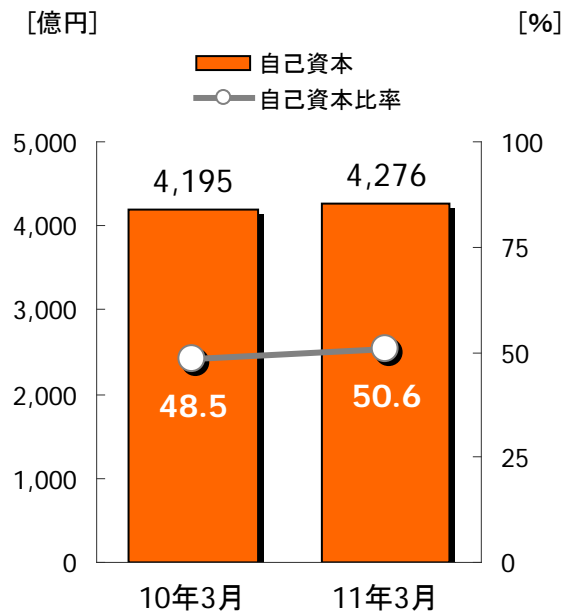
[円]

	11年3月	10年3月	増減
US\$	83.15	93.04	△ 9.89
Euro	117.57	124.92	△ 7.35

連結貸借対照表 主要指標

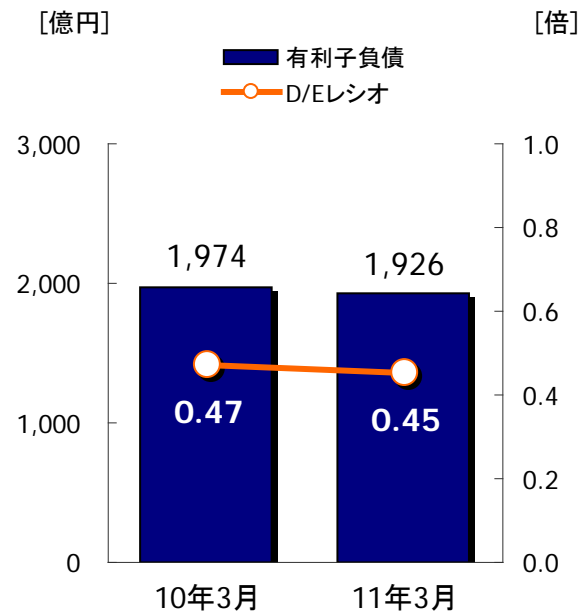


● 自己資本比率



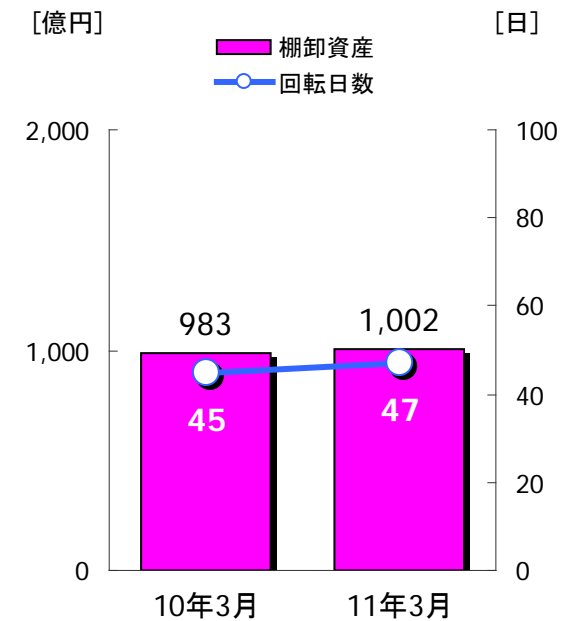
自己資本比率：
 $\text{自己資本} \div \text{期末総資産}$
 ※自己資本=期末株主資本+その他包括利益累計額合計

● 有利子負債残高・D/Eレシオ



D/Eレシオ：
 $\text{期末有利子負債} \div \text{自己資本}$
 ※自己資本=期末株主資本+評価・換算差額合計

● 棚卸資産・棚卸資産回転日数



棚卸資産回転日数：
 $\text{期末棚卸資産} \div (\text{売上} / \text{日})$

キャッシュ・フロー



KONICA MINOLTA

[億円]

	10年度	09年度	YoY	10年度 4Q	09年度 4Q	YoY
税金等調整前純利益	281	361	△ 80	119	185	△ 67
減価償却費	551	612	△ 60	140	151	△ 11
法人税等の支払額	△ 94	△ 16	△ 78	△ 30	△ 20	△ 10
運転資本増減他	△ 59	177	△ 236	57	△ 68	125
I. 営業活動によるキャッシュフロー	680	1,134	△ 454	285	249	36
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△ 447	△ 405	△ 43	△ 110	△ 97	△ 14
I.+ II. FCF	232	729	△ 497	175	152	23
有利子負債の増減	△ 31	△ 325	294	△ 342	△ 62	△ 280
配当金の支払額	△ 79	△ 93	13	△ 1	△ 1	0
その他	△ 19	△ 20	2	△ 7	△ 4	△ 3
III. 財務活動によるキャッシュフロー	△ 129	△ 438	309	△ 350	△ 67	△ 283